

## 1 目的・役割

これまでの  
議論の整理

◎にぎわい創出、魅力発信、地域活性化のプラットフォーム

◎地域の防災機能を強化する拠点施設

主な  
意見

- **にぎわいを創出し**、徳島県の魅力発信と、**地域活性化**のプラットフォームになる
- 社会課題の解決に寄与し、地域社会の共創と、豊かなコミュニティを形成する
- まちのシンボル・象徴的なアイコン、**県民の思い出の1コマ**を演出する特別な場所となる
- 周辺住民の災害時の安全・安心の確保に向け、**地域の災害拠点**となる機能を備える

## 2 規模・機能

これまでの  
議論の整理

◎「感動を共有する」アリーナとして、5,000~7,000席程度の規模を備えることが妥当ではないか

◎プロスポーツゲームをはじめとしたトップレベルのエンターテインメント空間の創造が必要

◎メインアリーナ、サブアリーナ活用による「するスポーツ」の拠点が必要

主な  
意見

- 近隣自治体で1万人規模のアリーナ整備が進む中、**施設整備の競合は避けるべき**
- B.LEAGUEのアリーナ基準、県人口の状況、県内プロスポーツチームを参考に考えると**7,000席程度**が妥当
- 必要な音響・照明設備があれば**5,000~6,000席のアリーナもエンターテインメントに選ばれている**
- **全国大会の誘致**や県大会決勝戦、武道等アマチュアスポーツ、パラスポーツなど**県民利用の促進**

## 3 予定地活用の方向性

これまでの議論の整理

◎予定地全体を活用した「アリーナパーク」とすべきではないか

◎主催者・来場者に選ばれるアリーナとすべき（必要な規模のバックヤード、駐車場・駐輪場の確保等）

◎近隣大型商業施設との連携によるにぎわい創出が必要

主な意見

- アリーナ単体だけでなく、**敷地全体を活用し「アリーナパーク」として1日楽しく過ごせる場所**
- 興行利用を想定して**バックヤードの駐車場規模を十分に確保**することが重要
- 民間の周辺駐車場整備も見込みながら敷地内に**一定規模の駐車場、駐輪場**の確保が必要
- **近隣大型商業施設と機能分担・連携**しながらwin-winの関係が築けると良い

## 4 整備・管理運営手法の考え方

これまでの議論の整理

◎民設民営を含め官民連携手法について広く検討（運営事業者目線を重視）

※今後、関係事業者へのサウンディング調査を行い、具体的な方向性の検討を進める

主な意見

- 民設民営も含めた官民連携での整備・管理運営手法を見据え、**PPPの仕組みも踏まえつつ、どう官民で役割分担**をするか
- にぎわいを創出し、経済的価値を生むためには、**運営事業者がどうアリーナを運営していくか**が非常に重要

## 5 アリーナ事業推進上の課題

これまでの議論の整理

◎誰もが利用しやすいアリーナ（アクセス、動線 等）の整備が必要

◎混雑、騒音などの課題に対し、地域の理解を得ることが必要

主な意見

- 様々な障がいのある方が、安心して楽しく過ごせる、**ユニバーサルなアクセス・動線を確保**する必要がある
- **常に住民に寄り添い話し合っ**て善処していく**姿勢**が非常に大切
- 既存施設との**役割分担の明確化**や**長期的な管理運営の視点**が必要